

「歯ブラシの誕生」

富士市立吉原第一中学校
2年 久保田 安

昔、昔ある日のことだった。
その日世界一人残らずむし歯になった。
そこで一人の百姓が立ち上がったのだ。
その人の歯は一本残らずむし歯だった。
そこでその人は、むし歯を治す道具を發明しようとした。
その人と同じことを思って道具を發明している人がいた。
そして「チームむし歯治し隊」が結成したのであった。
そのチームの目的は、むし歯をも治す伝説の「はぶらし」を作ることだった。
その「はぶらし」の部品は世界のあちこちに、散らばっているのであった。

冒険① ブラシを探せ！

ブラシの情報が入った。
ブラシは、アフリカのガーナのブラシ村の伝説の洞窟にあるという情報だった。
それを聞いた百姓たちは、聞いて何もしない訳にはいられない。
アフリカに出動するのであった。
住んでいる場所は日本であった。
そこからは、船で行くということになった。船といっても自分でこいでいく、手こぎボートである。
5年の年月を過ぎ、やっとガーナに着くことはできた。
しかし、伝説の洞窟がどこにあるかということ、村の人々に聞いても分からないのであった。

そこで謎のおばあさんと会ったのだ。
黒い服を着て、黒いぼうしをかぶっていたので顔を見ることはできなかった。

そのおばあさんは
「伝説の洞窟へ行きたいのかね。ほんなら、この木を持ってきなはれ。」
といい、木をくれた。

「使い方は、簡単。木を立てて、たおれた方向に向かうがよい。」
そう言っただけのおばあさんは消えていったのであった。

その後、おばあさんの言っていた通りに木をたおし、たおれた方向に進んでいくと、大きな森に着いたのだ。

物音が一つもせず、黒く、ほぼ何も見えない森だった。

たおれた方向に進んでいくと、やっと洞窟を見つけたのだ。

その中に入っていくと、奥がとても光っていた。

百姓たちは、光の方へ行ったのだ。

奥で光っていたのは、金色のおばあさんの像だった。

なぜこんな所にあるんだろう？と思い、みんなはおばあさんを見つめてみると、おばあさんの口が開いてきたのだ。

その口からなんと、金色のブラシが出てきたのだ。

みんなはそれを大事に持って帰ったのだ。

冒険② 伝説の巻物を見つけだせ！

巻物の情報が入った。

巻物には、歯ブラシの作り方が書いてあるという。

場所は、日本のどこかにあるという。

百姓たちは、絶対見つけてやると言い、場所を分担し、探し始めたのだ。

しかし、その情報以外の情報は分からなかった。探しても、探しても巻物は見つ

らないのであった。

山や海、森の奥深くや人々の家などを、徹底的に探しているのだった。

そして探し始めてから、一年がたつ頃だった。

その時もまだ見つからないのであった。それから一週間した頃だった。

一匹のイルカが海で、子供たちにいじめられていた。

それを見た百姓は、子供たちを追っ払いイルカを助けて海に帰してやったのだ。

その日の次の夜のことだった。

コンコンと、家の戸をたたいている音が聞こえたので、戸を開けてみた。

すると、前に助けたイルカが二足歩行になり立っていた。

イルカは

「昨日は本当にありがとうございます。もしよければ、これを受け取って下さい。」

と言われ、

「何だろう？」

と思ひ見してみると、それはなんとあの巻物だったのだ。

「イルカ、ありがとう。」

と百姓が言った時、もうイルカは消えていたのだった。

すぐに巻物の中を見た。

中には「ブラシを1cm切り、それを木にくつつける。」

と書いてあった。

その通りに、金のブラシを1cmずつ切り、家にあつた薪につけて歯を磨いてみた。

すると、黒い虫歯の歯が一瞬にしてピカピカの真っ白の歯になったのだ。

その後日、歯ブラシをたくさん作り、みんなに配った。

するとみんなの歯も一瞬にしてピカピカ真っ白の歯になったのだ。

その歯ブラシは世界中に伝わり、世界で一人も虫歯の人はいなくなったのだ。

もう絶対虫歯にはなりたくない。

「毎日ね

しっかり歯磨き

していれば

虫歯なんぞ

かかりはせん」